（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4391500115		
法人名	NPO法人健寿会		
事業所名	グループホーム明香里		
所在地	熊本県天草市二浦町亀浦1066番地6		
自己評価作成日	平成24年12月　5日	評価結果市町村受理日	平成25年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41―5
訪問調査日	平成24年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

四季が感じられる大自然の中で、ゆっくりと過ごして頂いています。ホーム全体を落ち着ける佇まいとし、皆さんが、一緒に過ごされる居間も、ご自宅と同じようなくつろげる空間を作っています。また、このホームは古きよき風習が残っている地域にあり、地域の理解と体制の元、日々の生活を送らせて頂いています。その中で地域交流を盛んに行い、地域行事への参加と共に地域に住む方々との交流行事への参加をさせて頂いています。
また、散歩、調理等の生活主体者としての参加、そしてご家族との深い交流等にも力を入れています。今年度から、地域交流の中に、”認知症になっても安心して暮らせる町づくり”を目標に地域を巻き込みながら積極的に活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームを一つの家庭として捉え、「入所者一人ひとりの思いにとことん付き合う」理念の基、不安のない暮らしの提供に努めている。 入所者支援と共に地域支援にも情熱を持ち、保育園跡の建物を改修して、「喫茶明香里」と称して定期的な地域交流の場を提供している。ボランティアと職員が協力し、手作りお菓子や昼食を安価な値段で用意し、ウォークラリー等の催し物後には楽しい集いを開催。 また、老人会長・婦人会長・民生委員等の協力を得て、地域主催行事に入所者と職員が積極的に参加する他、ホームが行なう「徘徊模擬訓練」や、小学生と地域住民を対象とした「介護教室」など、様々な行事での交流に力を入れている。 地域交流のアイディア溢れた取り組みは、過疎化が進む地域の「あかり」となり心強い存在となっている。グループホーム全国大会において発表された事例は、「奨励賞」を受賞しており、今後の新しい取り組みが益々楽しみなホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づいて実践しているところであるが、移動等での職員入れ代わりにより、職員の認識に差がある。今後、すべての職員に理念を共有し、実践に繋げていけるよう努める。	法人開設当初の考えや思いを基に、グループホームの理念「あなたの想いに　とことん考え　とことん付き合う」「地域に支えられ　地域の明香里なりたい」「笑いあって　支え合って　すてきな思い出をあなたと共に・・・」を策定。目指す「あり方」を分りやすく表現した理念は、職員が戸惑った時の拠りどころとなり、行動規範として位置づけ、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩等で日常的に交流し、以下の地域行事へも参加している（運動会・秋祭り・老人会草引き）また、月に1度の喫茶明香里にて様々な、催しを開催し、地域の皆様にご参加頂いている。小組合いの日帰り旅行にも参加している。	「地域に支えられ、地域の明香里になりたい」と、理念に掲げ、ホームの基底とし地域交流に取り組んでいる。開設当初から、ホーム紹介のチラシ配布や、老人会の草引き等に職員が参加する等して徐々に地域の人々と交流が深まってきている。地域主催の運動会や秋祭りへの参加や、地域小組合主催の旅行に誘われて、利用者が参加し、また、職員も同行するつき合いとなっている。また、旧保育園を改装し、月1回、「喫茶明香里」を開催。職員とボランティアの手作りお菓子と昼食を安価な値段で提供し、特に、地域の一人暮らし高齢者への参加を促しながら、地域全体の交流の場としている。様々な地域交流の実践をグループホーム全国大会で発表し、奨励賞を受賞しており、今後の取り組みが大いに期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の開放授業を利用し、小学生、地域の方々を対象に介護教室（認知症についての講演、グループワーク、寸劇）、地域での徘徊模擬訓練を行うなど、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状態や生活状況についての報告は映像等を活用しながら解りやすく伝える工夫をしている。利用者の健康状態を個々に報告し、委員のみなさんの意見を引き出す努力をしている。また、地域交流について相談し、意見を頂いている。	運営推進会議委員でもある小学校教頭の協力を得て、子どもと地域の人々が一緒に学ぶ「介護教室」を開催したり、委員である消防団長の協力を得て地域住民と一緒の避難訓練などを実施している。、また、徘徊模擬訓練を地域ぐるみで行なうなど、多様な行事に運営推進委員の協力的な支援が得られていた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センターの参加や、運営推進会議の資料、会議録の提出を行っている。また、支所等に広報誌の配布を行っている。	運営推進会議議事録と共にスタッフ手作りの広報誌「明香里だより」「グループホーム・ねすと明香里」を行政に提出し、活動実績を報告している。また、徘徊模擬訓練には、担当課職員がオブザーバーとして個人的に参加するなどの交流もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会の開催や、外部研修参加を行い、と職員が理解した上で、ケアに取り組むようにしているが、全職員がきちんと理解できているというと不安な部分がある。	「回転いすに座った入所者が、テーブルの奥まで深く椅子を入れることは、利用者が自由に動けず、拘束になるのでは・・・」気になることは、小さなことでも事例を通して話し合い、拘束のないケアと環境づくりの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会において高齢者虐待防止関連法について勉強し、お互いに「これ、虐待にならない？」と声を掛け合いながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ひと通りの研修は行っており、制度の事は知っているが、職員の認識にも差があり、今後も研修が必要である。現在まで、支援するに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前にご本人やご家族のお気持ちをお聞きした後、記録に残している。また、契約については、十分に説明を行い、納得されてから、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院受診の報告や家族会（稲穂会）や面会時に意見を聞き取るようにしている。また、運営推進会議にもご家族の代表に出席して頂けるようにお願いし、外部者との意見交換ができるように配慮している。	家族が参加し易い曜日や時間帯を聞き取り、年4回、土曜日の夜7時から家族会を開催。ホームでの生活ぶりをパワーポイントで報告し、家族の安心に繋げている。年末には、家族会の後、入所者と運営推進委員・職員も交えて忘年会を開催する等、話しやすい環境づくりに努めている。管理者は、入所者の安眠を考え、夕食前後の時間帯に入浴導入を実施するにあたり、予め家族会に相談し、了解を得た上で実施するなど、家族の意見を聴く姿勢が見られた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、代表者や管理者を交えて職員会議や研修会を開催、意見交換の場としている。また、毎日のミーティングに管理者が参加したり、定期的な代表者との個人面談にて職員から意見を出せる機会を設けている。	毎昼食後、法人代表・ホーム管理者・隣接するデイの責任者が集まりミーティングを実施して意見交換・情報共有を行なっている。法人理事長は、年初に、年間目標を漢字一文字で表すことを全職員に求め、自分の考えや思いを見つめる機会を設けたり、目標設定を促すこと等、職員育成に努めている。また、管理者は、やりがいのもてる、働きやすい職場環境づくりや、職員の不安や相談事などを、細かに聞き取るための個人面談等を行い、成長を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。個人面談、個人目標シート、ボーナス時の自己評価制度等、やりがいのもてる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	はい。法人内の研修会を毎月開催。研修を担当制で行っている。また、外の研修会は研修案内を回覧し、研修を受ける機会を多く作るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	遠く近くに関係なく、希望に応じて他施設訪問の機会を作ったり、同業者の集まり（天草ハート、研修会、忘年会など）へ参加する機会を設け、サービスの質が向上するよう、取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。入居前にご本人にお会いし、コミュニケーションを図り、本人の不安の解消や今後の生活に対する意向の確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。上記と同様に入居前面接等により、ご家族の要望をお尋ねし、それに添うような生活支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。入居前面接・面談等を密に行い、広い視点からの対応に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	だいぶん関係を築けてきていると思うが、「暮らしを共にする」という視点と「生活の主体者はご利用者」という視点を持ち、関係作りを行っているが、まだ、職員の認識に差が見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。ご家族の意向を伺ったり、ご自宅に一緒に伺う等しながら、ご家族との絆を大切にした支援を行っている。また、面会時や定期受診連絡時には、日頃の生活の様子や状況もお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。ご自宅へお連れし、近隣の方を含めた地域の方々や、ご兄弟、親戚の方々、ご家族と共に会って頂く機会を作っている。職員も馴染みの関係の中に入らせて頂いている。	自宅の仏壇参り、急な坂の上にある先祖の墓参りなど、入所者の思いにとことんつきあう姿勢で、職員はおんぶしてお墓参りを実施し、心の平穏・安心に繋げている。希望者は、系列のデイサービスに参加したり、「喫茶明香里」で地元の人と交流したり、小組合主催の日帰り旅行に参加するなど、地域や馴染みの人たちとの関係継続支援に惜しみない努力をしている様子がみられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。居間を中心にご利用者同士が共有できる場を多く作り、関わりが持てるように配慮している。また、掃除・調理作業中の関係作りを考えた支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。入院が長くなっても病院にお見舞いに行ったりしながら、支援に努めている。また、お亡くなりになった後も、ご家族との関係の継続に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。お一人おひとりの思いを大切に考え、それらを把握する機会を日常の中で多く持ち、「思い（想い）」を常に考えながら支援を行っている。	言葉での意思表示が難しい入所者の、一番豊かな表情を捉えることに努め、「想い」をとことん探り、話し合ったうえでの実践に取り組んでいる。動けない人が静かに座っている時、「本当にここに座っていたいのだろうか？」「どの空間に行きたいのだろうか」と、職員の模索は日々続いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。入居前後とご家族や地域の方々とお会いできる機会には、生活歴等の把握に努め、これまでの生活をそのまま継続できるよう、配慮している。入居前に利用されていたサービス事業所とも連携をとり、スムーズに生活が移行できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。今後ももっと、ご本人の有する能力を気付ける観察力を付けていけるよう努力していきたいと考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、作成前に御本人、御家族、主治医に意向や意見を尋ねている。モニタリングを現場職員と一緒に行い介護計画に反映できるように努めている。	望んでいる生活は何か、ぽろっと漏れたつぶやきや、職員の小さな気づきを記録に残し、状況の変化に応じて、本人・家族・主治医と話し合いながら計画作成とモニタリングを行なっている。病院入院時に胃ろうの手術を受けた入所者が帰ホーム後には口から食べられるようになったケースもあり、「医療で出来なくても介護でやれることがある」と理事長と管理者は意欲を示し、より良い暮らしの支援を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践についての記録は、なされているが、結果、気づきの記録については、職員に差があり、介護計画の見直しに十分活用できるように努めていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応えようと取り組んでいるが、個人のADL等によって偏りが見られる。併設の通所事業所と連携しながらサービスの多様化に努めている。これからも、新しい発想が必要だと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	はい。地域の自然の中を散歩したり、地域の方々と一緒に運動会・秋祭り等の行事参加を行っている。また、2ヶ月に1回食堂を開店し、地域貢献に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	はい。入居前からの主治医を尊重し、入居後も継続して受診支援を行っている。また、受診の前後は、ご家族に連絡をとり、受診結果等の報告を行っている。	かかりつけ医の継続受診には職員が同行しており、状態変化による緊急時は、家族に連絡し、受診の同意を得た上で職員が同行している。ただ、可能な家族には、結びつきの強化のためにも受診に立ち会うことを依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師がいない為、日々の体調の変化等に配慮し、異常があった場合は、主治医との連携をとり、情報交換等により支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の文書による情報の提供、退院時の医療機関からの情報収集等を連携を取りながら行っている。常日頃より（定期受診時）病院関係者とは生活状況や気になる点等を相談するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会等でも重度化や終末期に当ホームで、できること、できないことについて、説明をしている。個々のニーズにお応えできるように幅広い支援ができるように考えていけるように努めていく。	これまで看取りの経験がなく、職員に看護士がいない状況ではあるが、利用者・家族の希望があり、主治医の協力が得られれば、ホームでの看取りも受け入れようという、前向きな姿勢が見られた。	重度化や終末期における対応方針を明確にして、職員全体で話し合い手順を作るなど共有することが必要かと思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行い、理解に努めているが、職員差がある。どうしても、実践力に欠けている部分が感じられる。今後も定期的な研修と訓練を行い、実践力を見に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民（近隣の方々や消防団）を交えての避難訓練（夜間訓練を含む）の実施や地域の自主防災訓練等への参加など協力体制がとれている。	緊急連絡網には近隣の2世帯も含まれている。夜間想定の避難訓練では、消防団・地域の子供や高校生も交えた地域住民が協力して、入所者避難訓練を実施。緊急時の協力体制が築かれている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に分かりやすい言葉や、親近感溢れる方言等を混じえながら、丁寧な言葉かけに努めている。また、上から目線で言わない、不在と分かっていてもノックして入室する。入浴支援時、同性を希望されるご利用者は同姓での対応をおこないプライバシーの確保を行っている。	利用者の出す大声でプライドが傷付けられ落ち込む人に職員が話しかけ、一対一で心を癒す対応を実施している。また、入浴介助に同性を希望する人には同性介助を行う等、其々の場面で利用者の思いを尊重した介護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴希望決定、外出、散歩のご希望も必ずご本人様にお尋ねしてから支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時間から一日の生活に至るまで、お一人おひとりのペースを考慮しながら毎日の生活リズムが作れるよう支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の洗面・整髪等の支援も無理なくできている。普段着と外出着の違いをはっきりさせ、気分を変えて頂けるよう配慮を行っている。（着用の衣類もご希望を尊重するようにしている。）		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりが出来られる事を把握し、野菜の皮むき、切込み、盛り付け、茶碗洗い、茶碗拭き等、職員と一緒に取り組むように、個別に支援を行っている。	天気が良い日は、お弁当を作って近くの「宮」に出掛けたり、ホームの庭でマキを焚いて「とん汁」を作ったり、運動会や、忘年会も皆でお弁当や料理を作り楽しんでいる。訪問調査当日も、手際よく盛り付け、配膳する利用者の活き活きした様子が観察された。朝食は起きてきた順に食べ、ゆっくりと自分のペースで過ごす生活が支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の把握に努め、記録に残している。栄養のバランスを考えた献立を作り、季節の古き行事等に合わせた献立も考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の誘導を行い、必要に応じた支援、見守りにより、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンにトイレ誘導を行っている。その成果により、紙パンツ使用が減り、布パンツ使用が多くなっている。	排泄チェック表でパターンを把握し、その人のタイミングに沿った誘導が効を奏し、多くの利用者が、紙パンツから布パンツ使用に改善している。その結果、紙パンツの費用も削減され、皮膚の状態も改善し、皮膚科受診の回数も減少する結果となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食事や水分量の調節で便秘を予防するように努めている。また、ごまきな粉牛乳、起床後の冷水飲用、腹部マッサージ等、便秘予防に努めている。また、水分量のチェックを行い便秘等に細やかな対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望の時間に合わせて、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。（4月よりご自宅での入浴時間、夕食前後の夜間入浴を行っている）	長年の生活パターンを大切に、希望者には、夕食を挟んだ前後の入浴を実施。その結果、夜間、落ち着いて睡眠が取れるようになった利用者も多くなり、心地良い入浴支援の実施となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のご希望のスタイル（これまでの生活習慣等を考慮し）に合わせ、自由に休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食前・後の薬の服用については、名前・日付・何食分の薬かを声に出してご本人に確認した後に必要に応じた援助を行い、服用して頂いている。個々の薬の目的や副作用についての理解は、職員に差があり今後の課題である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報等により、知った生活歴やこれまでの趣味等を基に職員と一緒に活動を行っている。（野菜作り・花植え・食後の茶碗洗い、拭き・洗濯物干し、たたみ・調理・掃除）また、生活の中で出来られることの気付きを新たな役割として行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に合わせて、散歩やドライブを日々楽しんで頂けるよう努めている。6月には地域の日帰り旅行に参加する。	郵便局にお金を下ろしにいったり、職員に同行して地域に宅配食を届けたり、食材購入にスーパーに出掛けたり、日常生活の中での外出支援が行われている。また、地域主催の日帰り旅行に参加したり、ハイヤ祭り・花見・ばんかん狩り・浜遊び・ぶどう狩り・秋の遠足など、季節ごとに多様な外出支援が実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望にて受診代やおやつ代（日用品代）をご家族より預かり管理している方と、ご本人の力に応じてご自分で持って管理されている方とあり、郵便局への送迎を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話はご本人へお知らせし、電話口までお連れし話して頂いている。また、個別に帰宅願望やご家族の声を聞きたい等の希望には、お応えしている。時節柄、年賀状の送付やバレンタインデーチョコレートに言葉を添えての送付の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、台所で共に調理し生活ににおいを感じたり、生活感や季節感が感じられる空間作りに心がけている。ソファーやこたつ等をしつらえ、好みの場所で心地良く過ごして頂けるよう支援している。	オープンキッチンのあるリビングダイニングは、テーブルのあるフローリングと炬燵や丸い卓袱台が置かれた畳敷き、カーテンの代わりに障子を使用した和洋折衷の造りで、昔懐かしい家具を設えるなど、のんびり・ゆっくりした懐かしい雰囲気の空間となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室、リビングのソファーやこたつ、廊下にベンチや椅子等を置き、好みの場所でくつろげるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御入所前に御自宅を訪問し、使い慣れた品をお持ち頂くようお願いしている。それによって、ご本人様の馴染みの物や使い慣れた物（タンス、布団、鏡台、写真等）を居室にしつらえている。	夫に買ってもらった思い出の鏡台・長年使った敷き物や卓袱台、家族の写真など、思い思いの品が置かれた居室は、清潔感と暖かみが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員と一緒に調理（魚おろし、野菜の下ごしらえ、切る等）や洗濯（干し、たたみ等）掃除（掃く、拭く等）の日常生活が安全に送れるよう支援している。		